



- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

夏休み前全校朝会

7月19日（金）、夏休み前の全校朝会を行いました。児童には、長い夏休みの過ごし方として、「冷暖自知」を例えに、実際に自分の目で確かめ、自らの体験を通して、たくさんのことを学んで欲しいという話をしました。

また、各種大会等で入賞した児童の表彰を行いました。受賞した児童は、右のとおりです。



名 称	組	氏 名
歯と口の健康週間 作品コンクール	作文の部2席	3-2 橋本 凛香
	標語の部2席	1-1 須山 葉
	標語の部佳作	1-2 長谷川 翔生
	ポスターの部3席	5-2 西口 滯
	ポスターの部佳作	2-1 藤井 玲風
宇都宮市水泳競技大会 Bブロック	6年男子50m 自由形2位	6-1 荒木 康志
	5年女子50m 自由形6位	5-2 橋本 愛梨
東日本書展第2回学生展	銅賞	3-2 佐々木 桃乃
	銅賞	5-1 佐々木 琴音
第3回栃木県学童選手権 水泳競技大会	200m個人 メドレー 1位 50m自由形 3位 50mバタフライ1位	4-1 福田 華子
第35回栃木県室内選手権 水泳競技大会	4×50m フリーリレー 1位	
第37回栃木県ジュニアA・ A A級公認水泳記録会	50mバタフライ 3位	

読書標語コンクール入選作品一覧

区 分	学年	氏 名	読 書 標 語
最優秀賞	4年	福田 華子	読書は ゆめいっぱい の 宝箱
優 秀 賞	1年	藤井 柚衣	きみにもあるよ こころうごかず すてきな本
	2年	仲井 咲人	本の中 お話いっぱい とびこもう
	3年	魚住 結葵	本読めば 楽しい今日が はじまるよ
	4年	星 英美里	読んでみよう 新しい出会いが 見つかるよ
	5年	川上ひなた	本を読むこと 世界をひろげる はじめの一步
	6年	鈴木 陽葵	読書とは 本と人を つなぐもの

図書委員会は、読書の楽しさや豊かさが伝わるような標語を全校に募集し、図書委員が、優秀作品を各学年から1点、最優秀作品を全校から1点選びました。すべての作品にそれぞれの思いが詰まっており、すばらしいコンクールとなりました。

吉田 真美 先生 お別れの会

吉田 真美 かがやきルーム担当職員ですが、8月23日（土）が勤務最終日でした。児童には、7月19日（金）の全校朝会の時に、お別れのあいさつをしました。吉田先生、長い間大変お世話になりました。



全校朝会（夏休み明け）

9月1日（月）夏休み明けの全校朝会を行いました。児童には、イソップ物語「ロバを売りに行く親子」の話から、目的を見失わず、その実現に向けた目標を自分で立て、一步一步地道に取り組んでほしいという話をしました。長い休みが終わりましたが、児童は朝から元気に登校することができました。校舎内に児童の元気な声が響き渡り、学校に活気が戻ってきました。

1学期の終業式は、10月10日（金）です。



戸田 由美 先生

育児休業を取得していましたが、戸田 由美 かがやきルーム担当職員ですが、8月24日（日）に復帰をし、9月1日（月）から出勤しました。児童には、9月1日の全校朝会で挨拶をしました。よろしくお願いいたします。

お知らせ

今後、熱中症対策で、下校時刻の急な変更等があります。
よろしくお願いいたします。

ふれあいウォークラリー

縦割り班による、ふれあいウォークラリーを実施しました。班ごとに、16個のミニゲームと8個のクイズをラリー形式で行いました。異学年交流活動を通して、相手を思いやる心や互いに協力する態度を育む、大変有意義な活動となりました。



授業参観・オープンスクール

9月10日(水)、今年度2回目の授業参観を実施しました。また今回は、業間から学校の様子を参観できるオープンスクールとしました。たくさんの保護者や地域の皆様にお越しいただきありがとうございました。お気づきの点などがありましたら、お気軽にご連絡ください。(連絡先 621-0444)



スマホ・ケータイ安全教室

オープンスクールの一環として、錦小地域協議会主催の親子出前講座を、4学年の児童と保護者を対象に実施しました。講師の市教委学校教育課 直井指導主事から、小中学生のSNSの利用や犯罪被害、長時間の利用による悪影響等について、非常に分かりやすく説明をしていただきました。

第2回いじめゼロ強調月間

9月は「第2回いじめゼロ強調月間」です。錦小スローガン「思いやり 一歩ふみだし 世界はかわる」のもと、いじめは絶対に許さないという共通認識で、子供たちが明るく充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。

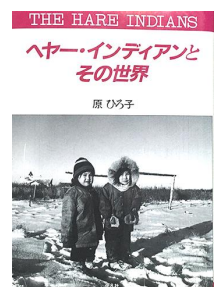
「まずは、やってみる」ヘヤー・インディアンから学ぶこと

カナダ北西部(北緯66度33分を通る北緯線と北極海に注ぐマッケンジー川が交差する地)に、ヘヤー・インディアンという狩猟民が暮らしています。ヘヤー・インディアンのヘヤー(Hare)は野ウサギのことで、彼らは野ウサギを捕獲して生きているインディアン(狩猟採集民)だそうです。

彼らが生活するこの地域は、冬は零下50度から60度になる極寒の地です。したがって、彼らにとって何より重要なことは凍え死なないようにすることです。そのため、自分の命は自分で守ることを幼い頃から身に付けなければなりません。ところが、ヘヤー・インディアンの社会では、「教える」「教えられる」という文化がありません。では、どうやって身に付けているかという、物事は人の行動を注意深く観察することで身に付くと考えられているのです。

ヘヤー・インディアンの研究のため、現地で調査をしていたある研究者の話を紹介します。その研究者は、厳しい冬を乗り越えられるか心配になり、雪の上を移動する際に使用する「かんじき」の使い方を教えてもらえないかと、現地の人にお願いをしました。ところが、彼らは口をそろえて、「こんなことは、冬が来て、雪が降って、履いてみればわかる。そして、歩けばわかる。」というだけで、誰も教えてくれなかったといいます。私たちの社会では、「教える」「教えられる」ということが当たり前で、教えてもらうことが前提で物事に対応することに慣れてしまっています。しかしよく考えてみれば、多くの人は、大人の真似をして、自分でやってみて、試行錯誤を繰り返しているうちに、いつの間にかできるようになっていた、という経験があるものと思います。勉強、スポーツ、習い事など普段からやっていること、またはやってみたいと思っていることにチャレンジし、試行錯誤を繰り返しながら、考える力、判断する力、あきらめない力を身に付けていきたいものです。「まずは、やってみる」ことが大切だと思います。

『ヘヤー・インディアンとその世界』(著者)原ひろ子



本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ